

里山林整備でイノシシ対策

鳥
獣
新
聞

第 16 号
残暑お見舞い号

奥入地区の棚田脇の農道で、お墓参りに行く途中。

寅次：あれ。何だかここいら変わったなや。

ハツイ：田んぼの周りの山がすっきりしたっぺよ。

寅次：ほだなや*。いつの間にやったんだんべ。

ハツイ：年明けに地区のみんなさ頼んでやったみて一だわ。

寅次：昔はどこもこんなだったんだきつともな。おらげの**山も、
何とかなんねえもんかな。

ハツイ：クズがひっからまって、どーにもなんねえわ。

寅次：入ってぐどころじゃねーもんな。

*ほだなや：そうですね **おらげの：私の

人の目にはすっきり、動物の目には・・・？

中山間地域の人家や田畑の周辺には、里山林が存在しています。かつては薪拾いや落ち葉かきの場として整備されていましたが、近年は利用されることもなく、藪となっています。このような場所は、野生動物にとって格好の隠れ家や餌場となり、隣接する田畑に被害を与えています。

平成 20 年度より、「**とちぎの元気な森づくり県民税**」を活用した**野生獣被害軽減のための里山林整備事業**が始まりました。里山林の藪を刈り払うことにより、動物たちの警戒心を高め、出没しにくくすることを期待しています。



整備前



整備後 (大田原市)

発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

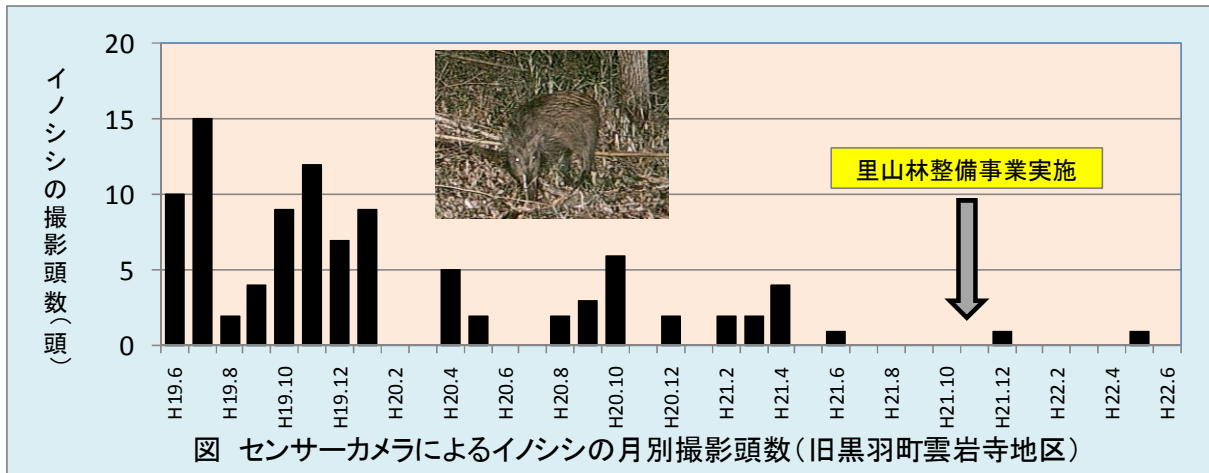
TEL028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望などお待ちしております。

無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！



その効果は？



県民の森管理事務所鳥獣課では、赤外線センサーカメラを使って整備前後のイノシシの出没状況を調べています。その結果、**里山林整備の実施により、イノシシの出没頭数が大きく減少**したことがわかりました（上のグラフ参照）。



整備は地域ぐるみで

整備事業は、各戸がばらばらで行っても効果がありません。**集落ぐるみで田畑をとりかこむように行う必要**があります。また、刈り払いを次年度以降も継続しないと、数年で元に戻ってしまうため、**実施後の管理も必要**です。

事業実施についての詳細は、各市町村の農林担当課、もしくは県の環境森林事務所・矢板森林管理事務所にお問い合わせください。



整備された里山林の様子（茂木町）
里山林の整備にあわせて田畑に獣害防止柵を設置すると、柵の効果が高まる